

消える？消えない？

～ゴッとの寿命を考えてみよう～

◆LNT（LEAVE NO TRACE）って？

- ・ダメージを残さずに自然を楽しむための7原則。
- ・7原則は科学的なデータに基づいた行動基準を示している。
- ・アウトドアを責任をもって楽しむこと。

◆LNTは目安のようなもの

アウトドアの中でどのようにすればダメージを最小にできるかを考え実行していくための判断材料。ルールや規則ではない。

LNTの指標をもとにその地域では何が適切かを考えることが大切。

◆三陸復興国立公園では？

三陸復興国立公園には天然林、人工林、住宅などが混在している。
自然へのダメージだけではなく住民に対する配慮も考える必要がある。

本展示は「ゴミの適切な処理」についてのみご紹介。
もっと詳しく知りたい方は下のQRコードから公式HPへアクセス！



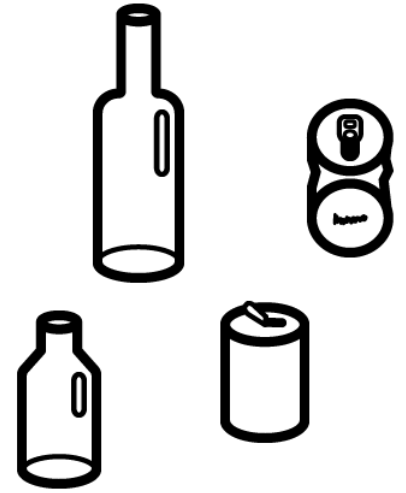
【アーカイブ版クイズ】 ゴミの寿命を考えてみよう！

「ゴミの寿命」
=ゴミが土に還る時間

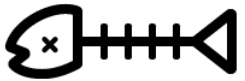
< 選択肢 >

- ・ 2～4週間
- ・ 2～5週間
- ・ 3 ヲ月
- ・ 1～5年
- ・ 20～30年
- ・ 50年
- ・ 50年
- ・ 80年～200年
- ・ 450年
- ・ 600年
- ・ 100万年以上





【クイズの^{こた}答え】
ならべ終わったならみてみよう！



自然の中に捨てられたゴミの寿命を考えてみよう 答え

名前	分解に必要な年数
①トイレットペーパー	2～4週間
②生ごみ	2～5週間
③綿ロープ	3 ヲ月
④アルミ箔	1～5年
⑤プラスチック容器	20～30年
⑥石油系ロープ	50年
⑦発泡スチロール	50年
⑧アルミ缶	80～200年
⑨プラスチック飲料ボトル	450年
⑩釣り糸	600年
⑪ガラス	100万年以上

牡鹿半島のゴミ：海（清崎）

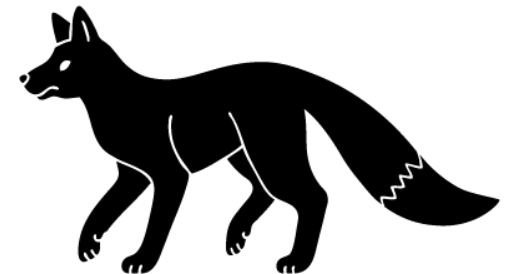


牡鹿半島のゴミ：山（御番所公園）



山にゴミを捨てると...

- ①人の食べ物は栄養満点
食べた生ごみや食べカスと似た臭いに誘われるようになる。
- ②家電などの有害成分が生物の死を引き起こす。



海にゴミを捨てると…

①赤潮が発生しやすくなる。

赤潮は、様々な生物の大量死や貝毒などの原因となる。

②家電などの有害成分が流れだし大量死の原因となる。



実際の赤潮（あかしお）

海山共通：プラスチックなどの寿命が長いゴミ

- ①ポイ捨てされた数だけたまっていき、ゴミだらけに。
- ②プラスチックの場合はどのような影響が起きるのか
未知数で予測がつかない。



自然と人を守るためにもLNTの基準で考えてみよう！

LNT【ゴミの適切な処理】

- ・すべてのゴミや食べかすを持ち帰ろう
- ・すべてのキャンプサイトや休憩場所を離れる時にゴミ確認しよう
- ・トイレは水辺、テントサイト、トレイルから60m離れたところにみつけよう
- ・トイレは20cm程度掘って行い、終わったらしっかり埋めよう
- ・トイレットペーパーは持ち帰ろう
- ・食器は水辺から60m離れたところで、必要最小限の天然洗剤で洗おう
- ・食べかすはこし網で取り除こう

※ダメージを残さずに自然を楽しむための7原則（抜粋）



【チャレンジ】

みんなでゴミ拾いにチャレンジしてみよう！

入れて良いゴミ

- ①大きさ：1～5cmくらいの大きさ
- ②プラスチック系のもの



ゴミ箱チャレンジの結果①



- ①館内カフェのカップ
- ②紙袋
- ③ティッシュ
- ④レシート類

プラスチックですらないものがたくさん

ゴミ箱チャレンジの結果②



- ⑤ペットボトル・缶
- ⑥お菓子の袋
- ⑦パンフレット類

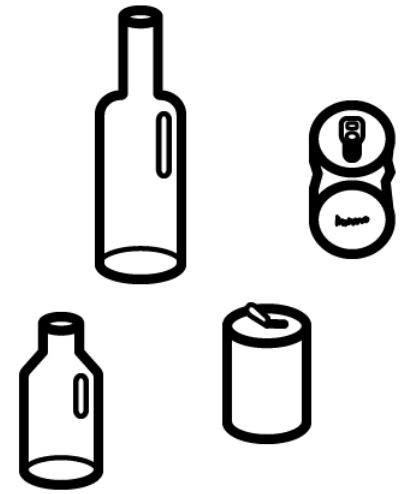
対象ゴミは0個という結果となった

ゴミ箱チャレンジの結果③

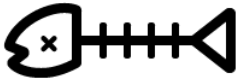
何も入ってない時は2週間程度ずっと空だったゴミ箱。誰かが対象外のゴミを1つ入れてから状況が一変した。

急に対象外のゴミを入れられる頻度が爆増し2週間程度でゴミ箱が満杯に……。

誰かがゴミを捨てるとその場所はゴミ置き場になってしまうという可能性が示唆された。



牡鹿半島でゴミ問題に 取り組んでいる団体の紹介



一般社団法人 石巻海さくら



神奈川県・江の島で始まった「海さくら」の活動は、今では全国へと広がり、多くの仲間たちが海を守るために力を合わせています。東日本大震災をきっかけに、2012年11月からは石巻・女川周辺で「石巻海さくら」としての清掃活動をスタート。2025年10月までに146回の活動を実施し、述べ5,504名の参加者が海岸に足を運んでくださいました。

現在も月に1回、長浜や牡鹿半島の浜を中心に、海岸の清掃を続けています。さらに、企業のフィールドワークとしての海の清掃活動のコーディネートや、他団体との共催など、活動の輪は広がっています。一方で、ゴミ処理費用の負担といった課題も抱えています。それでも、「海をきれいにしたい」という思いを共有する人たちと一緒に、これからも活動を続けていきたいと考えています。

どなたでも気軽に参加できます。海を好きな気持ちがあれば大歓迎です。引き続き、応援とご協力をよろしくお願いいたします。



宮城ダイビングサービス ハイブリッジ



女川湾竹浦海中をメインに、レジャーダイビングを行っています。また、海中搜索や定期的な水中清掃活動を実施し、三陸沿岸地域の海洋環境保全に貢献しています。さらに、女川・石巻をメインに宮城の子どもたちへの海の教育活動にも注力し、海の豊かさや環境保護の重要性を伝えています。

今後の目標として、さらなる清掃活動の拡充と、地域住民や子どもたちの参加を促進することで、持続可能な海の環境づくりを目指しています。また、海中ごみの種類や量などを継続的に調査し、データに基づいた効果的な保全対策を検討していくことが課題です。子供たちの教育活動については、より体験的で参加型のプログラムを充実させることで、次世代の海洋保護意識の醸成を図りたいと考えています。

地域社会と連携した活動を通じて、女川の美しい海を未来につなげていくため、今後も活動の幅を広げていきたいと考えております。ぜひ一緒に活動しましょう。



牡鹿半島ビジターセンター運営協議会



牡鹿半島ビジターセンター運営協議会では、牡鹿半島のゴミ問題への関心を高めることを目的として、令和6年度からゴミ拾い活動を継続して行っています。これまでに計13回実施し、延べ138名が参加しました。

昨年度は鮎川漁港周辺を中心に、地域の事業者や行政とともに実施しました。今年度は鮎川漁港のほか、みちのく潮風トレイル鮎川ルート沿いのゴミ拾い活動を行いました。また、今年度から一般社団法人石巻海さくら様と協力しながら取り組みを進めています。

さまざまな形で生じるゴミ問題について、地域全体で考えるきっかけとなるよう、今後も取り組んでいきます。今後の活動についても発信していきますので、お気軽にご参加下さい。



最後に…

**本展示ではあえてこうするべきといった内容は書いておりません。
展示を通してゴミについて考えるきっかけとなれば幸いです。**